

暴力

に悩んでいませんか？



■ご存じですか？

ドメスティック・バイオレンス

女性に対する暴力には、性犯罪・売買春・セクシュアルハラスメント・ストーカー行為など様々な形態があります。しかし近年、特に配偶者や恋人など身近な人から暴力を受けるドメスティック・バイオレンス（DV）が大きな社会問題となっています。

■ドメスティック・バイオレンスとは？

配偶者や恋人など、親しい間柄にある（あった）人からの暴力を、ドメスティック・バイオレンス（以下、DV）と言います。DVは、今まで家庭内や夫婦間の問題として軽視され、放置されてきました。しかし、こうした暴力による被害は深刻で、被害者は身体にも心にも大きな傷を負っています。DVは、たいへん身近なところで起こる問題ですが、命の危険や医師の治

療が必要な暴力行為にまで至る事例も見られることから、単なる夫婦ゲンカとして片付けるわけにはいかない、犯罪にもなる行為も含む重大な人権侵害なのです。

暴力というと、「殴る」「蹴る」などの身体的暴力を思い浮かべますが、それだけでなく、様々な暴力の形態があります。

例

◎身体的暴力

小突く。物を投げつける。首をしめる。髪を引っ張る。タバコの火を押し付ける。



◎精神的暴力

話しかけても無視する。人前で侮辱する。「おまえはバカだ」「食わせてやっている」などの暴言を繰り返す。大切にしている物を捨てる、壊す。

◎性的暴力

望まないセックスを強要する。避妊に協力しない。見たくないポルノ雑誌やビデオなどを見せる。

◎経済的暴力

生活費を渡さない。家計を厳しく管理する。仕事に就かせない。健康保険証を渡さない。

◎社会的暴力

外出を制限する。電話の内容や交友関係、行動を細かく監視する。

◎子どもを利用した暴力

子どもの前で暴力を振るう。子どもへの暴力をほのめかす。子どもを危険な目に遭わせる。

■子どもへの影響

子どもは沈黙の被害者とさえいわれています。

夫や恋人からの暴力は家庭内で起こることが多く、それは子どもにも深刻な影響を与えます。夫の暴力が子どもに及ぶことも珍しくありませんし、暴力を受けた妻自身が子どもを虐待することもあります。

また、暴力を目の当たりにすることで深く傷つくだけでなく、そういった環境の下で育った子どもは、自分の家庭での人間関係から、感情表現や問題解決の手段として暴力を用いることを学習します。

そして、将来的に加害者予備軍としての意識を醸成していくといった「暴力の世代間連鎖」をもたらすことも指摘されており、暴力や虐待の中で育つ子どもたちへのさまざまな影響が問題になっています。